

令和7年度第2回コンプライアンス委員会 会議録

- 1 日 時 令和8年3月9日（月） 午後3時00分から午後3時52分まで
- 2 場 所 本庁舎5階 特別会議室
- 3 出席委員 真田委員、桐ヶ谷委員、中曽根委員、清水委員、松原委員（5名全員出席）
- 4 出席者 前田総務部長、齋藤総務部次長、新村総務課長、宮内副課長、
小柴リスクマネジメント推進室長、武藤副主査、武田副主査、中川副主査
- 5 取材記者数 無し
- 6 傍聴者 無し
- 7 概 要

≪議事事項≫

議題1

議題1 資料1及び資料2、資料3に基づき、総務課長から説明。

[質疑応答及び意見]

(真田会長)

資料2の1ページ目で令和7年度計画では記載されていた「職員一人ひとりへのコンプライアンスに関する意識の更なる浸透を図る。」が削除されているがどういうことか。

(リスクマネジメント推進室長)

趣旨は変わらないが、前段で「職員一人ひとりへのコンプライアンス意識の定着を図る」と記載が既にあることから、文言を整理させていただいた。

(真田会長)

2ページ目の「D (Do)」について、事務を簡素化したことから「及び」から「又は」に変更したということだが、もう少し詳しく説明いただきたい。

(総務課長)

事務の簡素化もあるが、今まで事務毎にフロー及びそのフローにおいて注意すべき点を整理してきたところであるが、職員の中で「作成して終わり」という意識が出てきた。

他方で、事務ミスというものは発生しており、リスクを挙げるだけではなく、どのリスクが発生しやすいのかを着目していかなければならず、各所属で重点リスクとして整理していく中で、事務フローはできているのでそれをやる所属もあれば、それだけでは足りないということであれば作成していただく、ということで整理させていただいた。

(リスクマネジメント室長)

補足させていただくと、従前は様式の作成や修正を求めていたが、所属において、既存のマニュアルで対応できるのであれば、敢えて様式を修正等しなくても良いということを示したものである。

(松原委員)

2ページの「P (Plan)」の「リスクの分析や評価」の「評価」を敢えて「選定」にしたのはこういった意図があるのか。

一般的に内部統制では、リスクの評価をして対応するというので「評価」と「対応」が対になっている。リスクの「選定」という言葉をあまり使うことがないので、敢えて「選定」という言葉を使ったのであればそこに込められた意図を伺いたい。

(リスクマネジメント推進室長)

業務ごとの様式作成において、事務誤りが特に起きやすいような事務を優先的に着目していくということで、「選定」という言葉を使わせていただいた。

(総務課長)

リスクの「選定」というところで、見なくても良いリスクがあるという認識を職員に与えてしまうのであれば、「評価をする中で優先順位を付けて」というようにお示しできれば良いのかと思う。

(松原委員)

仰るとおり選定という言葉を使うと、数あるリスクの中から対応するものを選ぶという雰囲気があり、リスクの対応策は一般的にはリスク低減策がほとんどだと思うが、ここで選定して何も対応しませんという雰囲気があると良くないのではないか。

リスク選定も含めての評価と思うので、強い意図がなければ「評価」でも良いのではないか。

(松原委員)

6ページの「夜間休日における事業者への連絡手段の見直し」を削除したのは、導入済だからということか。

(リスマネ)

御認識のとおりである。県土整備部で発生した不適正事案の再発防止策の一つとして行うこととしていたが、公用携帯の整備が済んだことから削除することとした。

(松原委員)

「②事業者との適切な関係性の確保」で【総務課・各所属】とあるが、公用携帯の導入は全庁に整備したということか。

(総務課長)

「②事業者との適切な関係性の確保」は(a)と(b)の項目があり(a)については、総務課が取りまとめ役、事案があれば各所属が記録するというので【総務課・各所属】になっている。

(b)については、記載がないが、県土整備部で導入を進めることとしていたものとなる。

(中曽根委員)

一つ確認させていただきたい。

2ページ目の「P(Plan)」について、自己評価シートの作成は前回もあったと思うが、今回、どのような取扱いになるのか改めて教えていただきたい。

(リスマネ室長)

自己評価シートについては、実際に事務誤りがあった時にどういった内容の不備があったか、その原因や防止策はどういうものかを所属に書いてもらうこととしている。

そのような振り返りを行った上で、次の改善に活用していくことを主眼にしていくものである。

(中曽根委員)

それは問題があった時に作成するという意味か。

(リスマネ室)

御認識のとおりである。

事務誤りが発生した場合や監査で指摘を受けた場合に、所属で振り返って評価していただくというものである。

(清水委員)

4 ページ目のところで、当初計画していたランダム係数ではなく、秘匿を要する情報を直前に作成する仕組みを導入することとしたことについて、もう少し詳しく説明いただきたい。

(松原委員)

本項目については、内容的に口頭で説明を受けてもイメージしづらいものがあり、概要資料があればそれを提供いただきたい。

(総務課長)

承知した。(後日「別添概要資料」を各委員に提供。)

議題 2

議題 2 資料 1 及び資料 2、資料 3、資料 4 に基づき、総務課長から説明。

[質疑応答及び意見]

(真田会長)

議題 2 については色々と意見が出るかもしれないが、暫くはこれでやっていきたいというところである。

以上